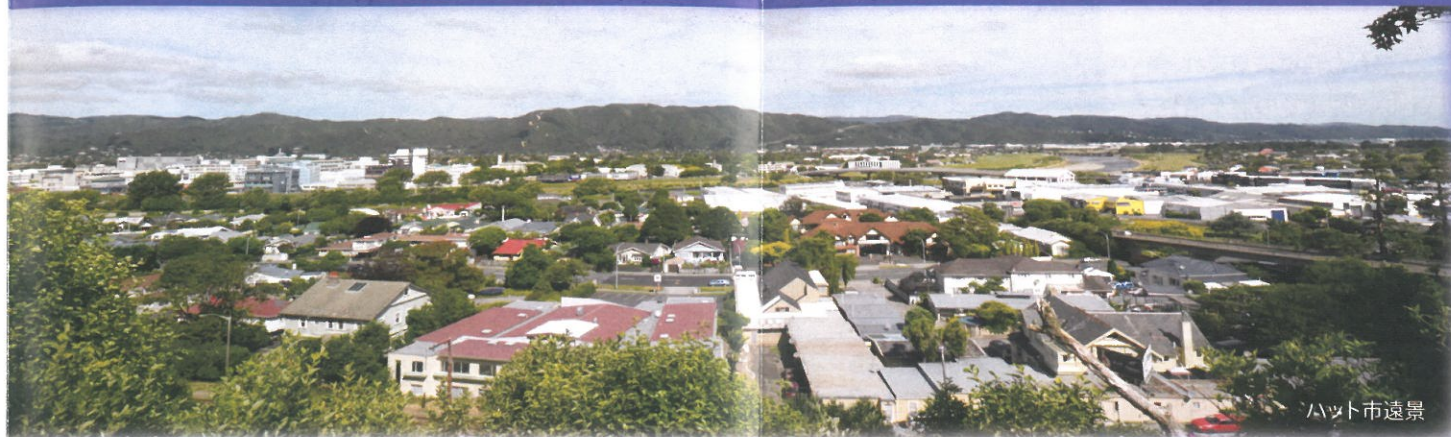


箕面市とハット市—友好のシンボル

ニュージーランド・北島の南端、首都ウェリントンの郊外にある人口10万のハット市。緑濃い丘陵に囲まれ、ハット川が街の中心を流れてウェリントン湾に注ぐ、景観に富んだ美しい街です。

ハット箕面友好ハウス（友好ハウス）は、その街並みを一望できる丘の中腹、原生植物が生い茂るジュビリー公園の中にあります。



ハット市遠景

開設までの経緯

箕面市とハット市は1995年、国際協力都市提携を結び、教育・文化・スポーツなどのさまざまな分野で活発な交流活動を展開してきました。そうした両市の交流拠点として、1999年、この友好ハウスがハット市に開設されました。

もともとこの建物は、1904年、初代ハット市長の娘夫婦の新居として建設され、以来約100年にわたるロマンと戦争の歴史が秘められており、ニュージーランドの第一級建築物に認定されています。

この建物を友好ハウスに改装するにあたっては、ハット市だけでなく、箕面市民の寄付や日本万国博記念基金の助成など、日本側からも多くの支援・協力が寄せられました。

交流の拠点

箕面市民との交流を進めるハット市民団体「ハット箕面友好クラブ」が中心となり、さまざまな行事が企画されています。9月の桜の季節に開催される「お花見フェスティバル」では多数のハット市民で賑わいます。日本から市民訪問団や学生グループが来訪すると、ここで歓迎パーティが開かれるのが慣例です。最近では結婚式場にも利用されています。

また、毎週、日本語教室や生け花教室などが開催され、ハット市だけでなく広くウェリントン首都圏の日本文化センターとしての役割を果たしています。一階の畳の部屋には雛人形や五月人形などが常時展示されています。



宿泊設備

管理人は常駐していない自炊型施設です。現在、一階にシングルあるいはツインとして使用できる寝室が一室あります。誰でも利用できますが、箕面市民には割引が適用されますので、詳しいことは（公財）箕面市国際交流協会までお問合せ下さい。なお、友好ハウスの利用状況により、宿泊のご希望に沿えない場合がありますので、予めご了承ください。

